

平成 21 年度 「スラブ・ユーラシア地域（旧ソ連・東欧）を中心とした総合的研究」  
共同利用の公募事業 報告書

井竿富雄(山口県立大学国際文化学部)

(申請内容)

申請者は「シベリア出兵收拾期の日本の諸政策—保障占領と「救恤」—」でこの公募事業に応募し、採択された。今回の目的としては、シベリア出兵の中期から後期にかけての諸政策、特に尼港事件(1920年)以後に行われた北樺太保障占領や、引き揚げてきた在留邦人への「救恤」政策について行うことを考えた。シベリア出兵はこれまで多くの研究がなされているが、後半の北樺太保障占領や、引き揚げてきた日本人住民の「救恤」についてはあまりなされていなかったからである。

(利用内容)

申請者は2009年の9月6日から9月9日まで、北海道大学スラブ研究センターおよび北海道大学付属図書館北方資料室を訪問した(2010年の2月に再訪する予定であったが事情によりかなわなかった)。

残念ながら北樺太保障占領に関してはあまり史料が見つからなかった(『血に彩られし北樺太』などの同時代に発刊された書籍は確認した)。これは今後の課題として何らかの機会を得て調査しなければならない。ただし、北方資料室に所蔵されている『日魯漁業経営史』、またシベリア出兵時の医療・衛生面に関する基本文献である『西伯利出兵衛生史』を見ることができた(完全にはそろっていないが、この文献を所蔵しているところは限られている)。また、全部を参照することはかなわなかったのだが、スラブ研究センターに所蔵されている「水野操日誌」を参照し、その『衛生旬報』を見ることができた。

(成果)

参照した史料の一部を用い、大学紀要に以下の論文を公表した。本学は冊子体の紀要を発行していない。

「尼港事件・オホーツク事件損害に対する再救恤、1926年」『山口県立大学国際文化学部紀要』16号、2010年3月、1—12頁

以下のサイトからダウンロード可能である。

[http://www1.yamaguchi-pu.ac.jp/archives/2010/part1/01.Intercultural%20Studies/Inter\\_01\\_IZAO.pdf](http://www1.yamaguchi-pu.ac.jp/archives/2010/part1/01.Intercultural%20Studies/Inter_01_IZAO.pdf)